

平成 23 年度第 1 回倫理審査委員会報告

○ 目的

衛生研究所の職員が実施する調査、研究、実験及び実習等が研究対象者の人権配慮、研究内容の説明と同意等、倫理的配慮の下で適切に行われることを目的として、倫理審査委員会による審査を実施しました。

○ 開催日 平成 23 年 9 月 9 日 (金)

○ 倫理審査委員

委員長	前納 弘武	大妻女子大学社会情報学部 教授
副委員長	岡部 英男	衛生研究所 所長
委員	守屋 利佳	北里大学医学部 准教授
委員	高城 信之	衛生研究所 副所長

○ 審査対象研究課題

平成 23 年度研究課題のうち、検査材（人体から採取した血液等の試料）を用いる 3 研究課題について審査を実施しました。

○ 審査項目

1. 研究によって生ずる危険性と学術上の成果の総合的判断
2. 研究対象となる個人又は検査材の提供者の人権擁護
3. 検査材の入手方法

○ 研究概要と審査結果

No.	研究概要	審査結果
1	食物アレルギーの解析とその応用に関する検討 食物アレルギーは近年増加傾向といわれる。現在、食物アレルギーの治療として抗原除去と誤食に対する薬物療法が主になされているが、抗原蛋白の解析を行い、その特性や分布を知ることにより、代替食品の開発や減感作療法への応用が可能となる。本研究は食物アレルギーを呈した症例について、その抗原解析を試みるものである。	承認
2	ハッテン場における HIV 感染リスク低減に向けた意識行動調査 HIV 感染者数、エイズ患者報告数は年々増加傾向にあり、近年では、感染者の 9 割が日本人男性であり、感染経路別では同性間性的接触によるものが 7 割に上ると報告されている。男性の同性間性的接触者に対して HIV 感染リスクを低減させる行動変容を促すことは、非常に有効な HIV 感染予防対策であるが、まだ効果的な対策プログラムは確立されていない。本研究では、男性同性間性的接触者が多く利用し、出会いや性交渉の場となっている“ハッテン場”と呼ばれる店舗施設において、コンドーム配布強化等の介入を行い、その介入前後に施設利用者にアンケート調査を実施することで、感染予防対策に有効な介入方法を検討する。	承認
3	感染症流行予測調査事業（インフルエンザ、麻しん、風しん感受性調査） 感染症流行予測調査事業（インフルエンザ、麻しん、風しん感受性調査）では、ワクチンで予防できる疾患に対して県民が免疫を持っているかどうかを地域別や年齢別など、いろいろな面から比較・検討することにより、長期的視野で病気の流行を予測することができる。本調査は、神奈川県衛生研究所及び医療機関の連携のもとで実施し、神奈川県におけるインフルエンザ、麻しん、風しんの集団免疫の状況を把握する。	承認